

【第3回 伊勢市立小中学校適正規模化・適正配置基本計画(案)に係る検討会の概要】

- 1 日 時 平成28年8月4日(木) 19:00~20:30
- 2 場 所 小俣総合支所 第1・2会議室
- 3 出席者 深草正博、美濃松謙、伊豆 敏、宮本 彩、安田悦子 計5名
- 4 内 容

(1) 第2回検討会の概要報告

(2) 検討課題について

○二見地区の学校の移転について

★二見地区の学校(二見中学校)の移転をどのような形ですすめていくのか。

【検討の視点】

- ・学校の位置
- ・児童・生徒数推移
- ・校舎建築年度
- ・防災面
- ・通学距離
- ・保護者や地域の要望
- ・移転場所
- ・懸念されること
- など

【検討委員の意見(要旨)】

- ・学校をその地域の拠点校として位置づけていくには、40、50年先を見据えて議論すべきである。また、他の地域との整合性を図ることも重要である。
- ・単独ありきではなく、他の中学校と統合できないかという視点でも一度考えた方がよい。
- ・部活動や合唱などの行事の面から考えると生徒数が少なくなっていくのは心配である。
- ・生徒数は少なくなっていくかもしれないが、魅力的な学校をつくっていけばよい。
- ・二見地区の地域性を大事にしていくこと以外に、何らかの方針が必要である。
- ・保育園、小学校、中学校を一緒に高台へ移転するのであれば、連携や一貫教育を進めるなど特色を出してはどうかと思う。
- ・保育園や小中学校を施設一体型にして、新しい形をつくっていけば魅力ある学校ができるのではないか。
- ・中学校も小学校と同じところに移転するのであれば、別々に建てるのではなく、建物を工夫した方がよい。
- ・小学校と中学校を一体にし、駐車場など可能な限り共有していけばよい。
- ・中学校だけ別々に建てるのではなく、保小中一緒の方が子どもたちの情報も共有できる。また、発達支援やいじめ問題など、切れ目のない支援が可能になる。
- ・通学面から考えても他の中学校と統合する方向より、より安全である。
- ・他の中学校と統合することにより、二見地区に中学校がなくなってしまうと地域に与える影響は計り知れない。
- ・学校規模を中心に考えていくと他の中学校との統合ということも考えられるが、保育園、小学校、中学校を一緒にすることも子どもたちにとっては有意義だと考える。